

◆ 四国防災八十八話 第六十三話より

『人名がついた重信川』

教訓…川の名前に刻まれた由来を学ぶこと

四百年も前の  
話です

松山に新しい  
殿様がやってきました

むー

殿様は  
決めました

よし

かとう よしあきら  
加藤 嘉明 公

当時の松山は毎年  
大変な洪水（水害）に  
悩まされていました…

そこで殿様は伊予川の  
改修をある部下に  
命じました

とゆいわけで

川の知識を持つている  
お前に頼みたいのだが  
どうじゃ？ 重信

伊予川…

ですか…

足立 重信



伊予川は名うての暴れ川として  
人々から恐れられていました

人々の苦しみを察さした殿は  
洪水をなんとかするため

川の工事を足立重信あだちしげのぶに  
任せましたのです



ふむ  
どうしたものか

工事の計画自体は  
思いついたものの…

これはなかなか  
大変な作業だぞ

完成さえすれば  
効果は大きいのだが

しげのぶ  
重信は川の流れを  
変える工事を  
考えていました

しかも伊予川だけでなく  
石手川の向きもです

彼はこの二つの川を合体させ  
そのまま海に流そうと  
考えました

しげのぶ  
重信様

お前たち……  
まだ起きてたのか

殿から受けられた  
頼み事の話は  
聞いております

何か考えは  
浮かびましたか？

ああ、  
思いつきはしたのだが  
実行するには  
無理がある

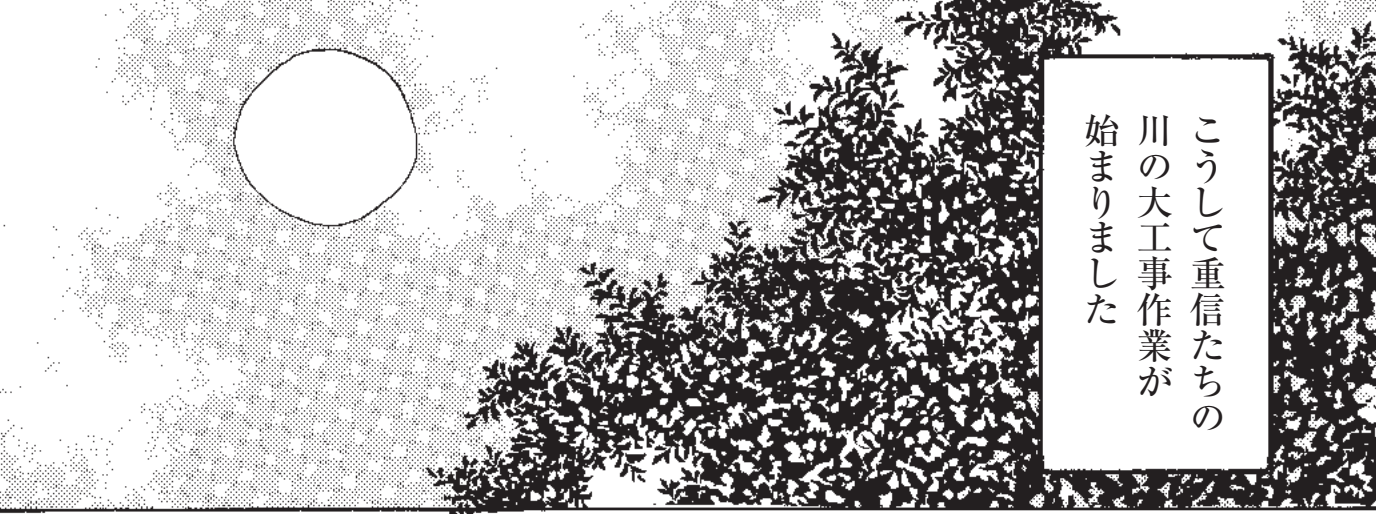
やりましよう

皆で力を合わせれば  
きっと実現できます

自分たちに  
任せて下さい

お前たち……






こうして重信たちの  
川の大工事業が  
始まりました



暑い日も



寒い日も



重信たちは  
工事を続けました

石手

中でも困難を  
極めたのが

石手寺近くにある  
「岩堰」という場所の固い  
岩盤を掘る作業です

岩堰

← 新しく開通させる石手川

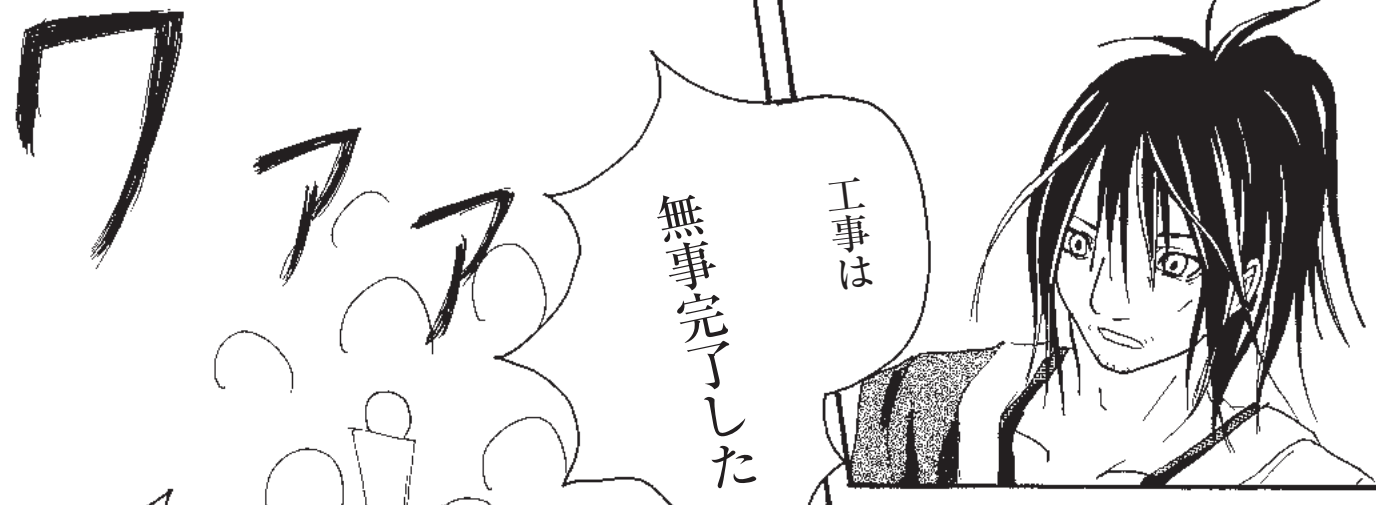
石手川の向きを  
変えるため

重信たちはツチとノミで  
これを根気よく掘り続けました

何日も何日も  
掘り続けました

そして...!!





工事は

無事完了した



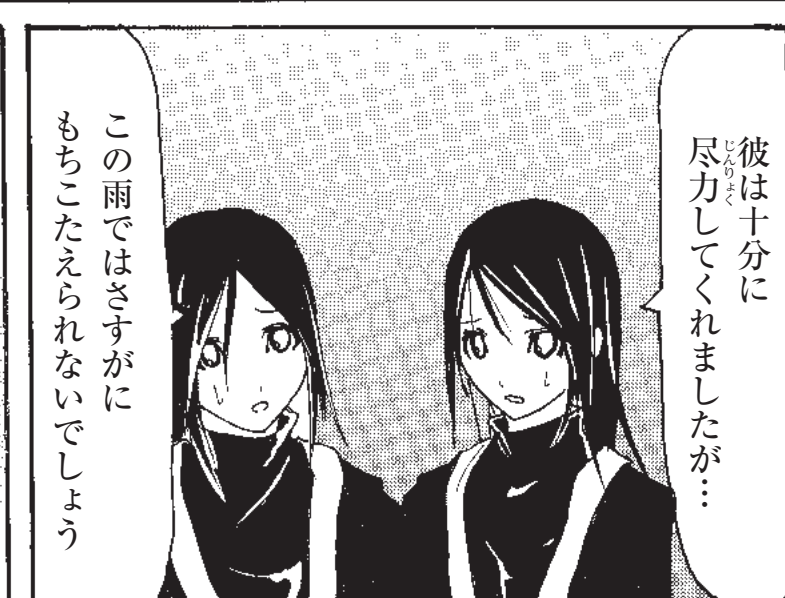
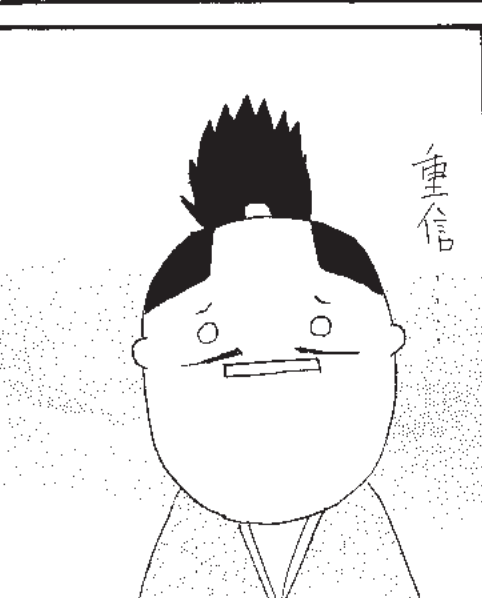
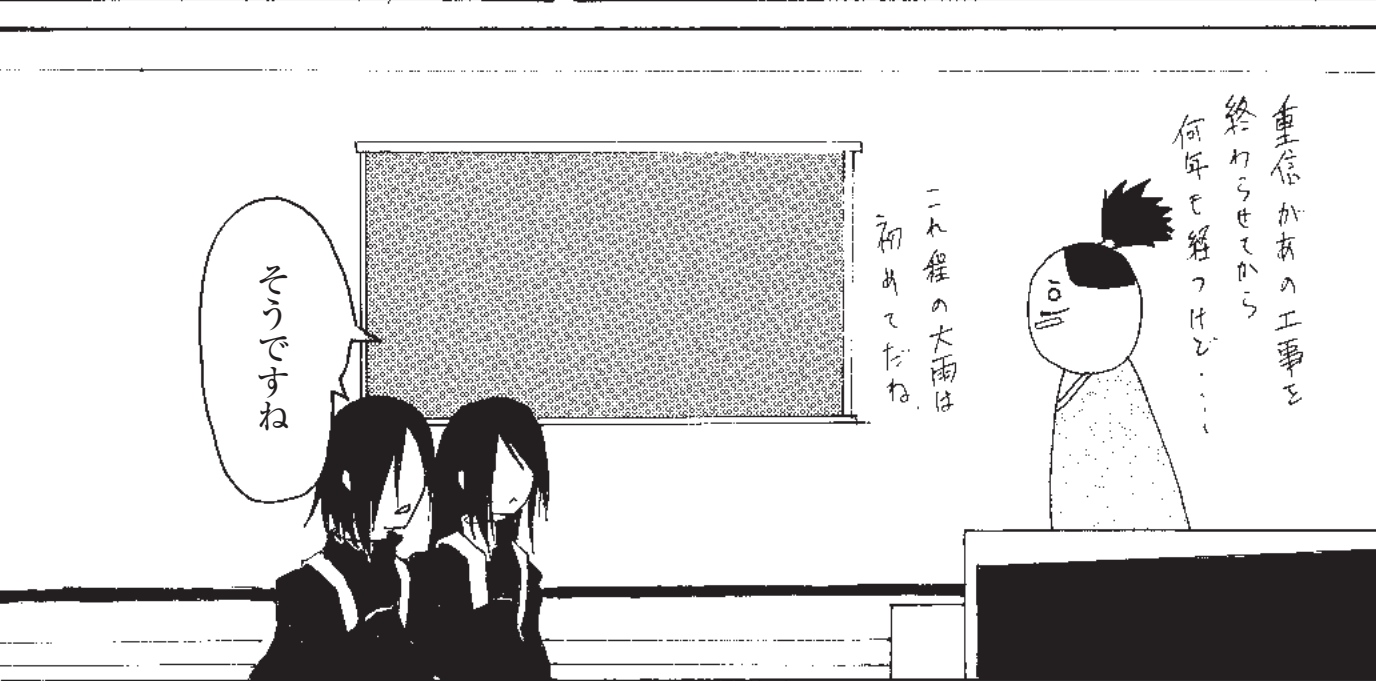
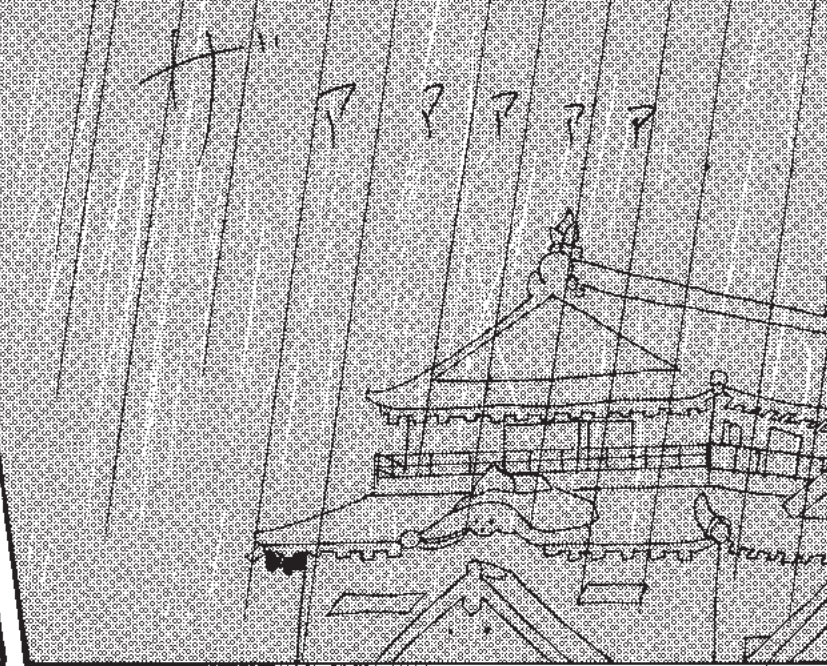
皆の者  
よくやってくれた



皆の歓声かんせいが  
天高く響き渡りましたひび

重信たちはついに  
工事をやりとげたのです

しかし





洪水

頭によぎる悪夢

一人だけ

誰もが観念かんねんしました

誰もが諦めあきらめました

たった一人を  
除いては



翌朝

どういふことだ？

さわ。

洪水が  
起きなかった…

あれだけ雨が  
降ったのに…？

川の流れを  
変えたおかげさ…

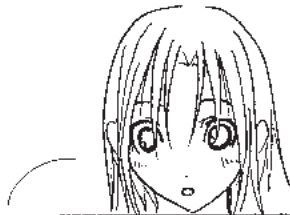
重信さま!!

それはどういういう…?

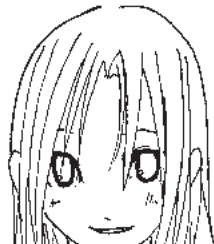
あふれかえるほどの水が  
たまるなら  
それを安全な地域に流せばいい

川の流れを変えることに  
よって上手く水量が分散  
されたってことだ

ほ か ————— ん



要は助かったって  
事だ!!



やったああああ  
重信様ばんざーい

こらこら  
さわぎすぎだぞ

重信は見事に  
松山を洪水から守り

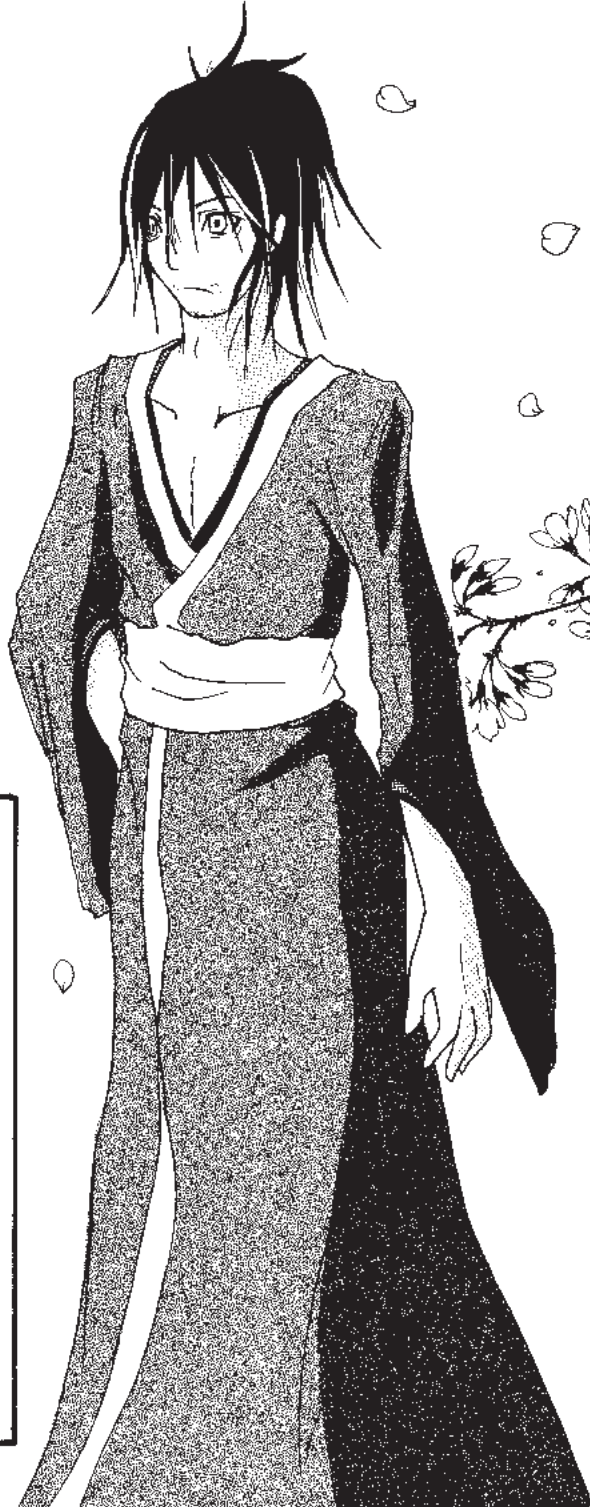
重信よ  
よくや、マクハタ

人々は心から喜び  
感謝かんしゃしました



そして…いつしか  
伊予川は重信川と  
呼ばれるようになりました

暴れ川を治めた  
彼を称<sup>た</sup>えてのことです



こうして  
日本の国内で唯一  
重信川は人の名がついた川  
となりました



これは  
ある川の名前に刻きまれた  
一つの物語

重  
信  
之  
墓

その物語の主人公の  
功績こうせきは…

今でも人々の心に深く  
焼き付けられています